

2021年7月30日発行

今井館の移転によせて ―ウィークデイの集い27年の感謝―



今井館聖書講堂に並ぶ企画委員たち

驚見 八重子

このたび慣れ親しんだ目黒区中根の今井館が文京区本駒込へ移転することになり、振り返ればいくつもの場面がよみがえる。1960年に無教会へ導かれて以来、今井館で行われる恒例の記念講演会や様々な学習会は楽しみであった。集会の先輩方や懐かしい友らの告別式も深く心に残っている。

だが、私にとっての今井館といえば、何と言っても27年間続いた「ウィークデイの集い」である。1991年2月の寒い朝、集いは十数名の参加者を迎え高橋喜久江さん（2020年12月逝去）の「女性の人権」をも

って始まった。ウィークデイの午前中を有効活用するため、なにか良い企画を考えるよう新井明先生（当時副理事長）からお声がかかり、集会の垣根を越えて数名の女性たちが集まり企画・運営にあたることになったのだ。年間8名の女性講師を年度初めに依頼し、ワープロでチラシを作成し、事務室の輪転機で印刷し、発送する。知恵をしぼり、情報交換（うわさ話）しながら作業をこなす時間は愉しかった。

あえて女性に限った講師陣は、心配をよそに、多方面で活躍されている方がつぎつぎ浮かんだ。信仰に裏打ちされたお話は専門的でありながら地に足がついた真実の物語であり、毎回新しい発見に感動した。参加者一同が感話を述べ合う時間からもジェンダー課題など多くを学んだ。シリーズ「若ものと語る」シンポジウムやクリスマスコンサートには男性のご常連や家族ぐるみの参加も増え、世代間交流にもひと役かったのではないかと自負している。

記録として編集・出版した小冊子『女の視点で語る』を並べて見ると、今なお色褪せていない多彩なテーマに驚く。女性の得意分野とされる教育、介護、福祉、文化だけではない。地質、生物、化学、医学など理系女もかなりの数だ。つまり26冊の冊子は、男性優位と見える無教会においても女性たちはあらゆる分野で社会に貢献してきたことを証している。そしてその軌跡は「女の視点」から語られることにより、平成という時代の変貌を鏡のごとく映していると思うのである。

今井館という良き場が備えられ、その場に集い、語り、祈りを共にした方々、また陰になり日向になり集いを支えてくださった皆さまに、心からの敬意と感謝をささげます。

（無教会新宿集会会員・和洋女子大学名誉教授）

目次

表紙・巻頭言

目次・内村鑑三の言葉	若井晋兄を偲ぶ……………7
表紙について・発行趣旨……………2	学校・学寮だより……………8
新今井館建築状況……………3	各地からの報告……………11
内村ルツ子さん年賀状……………4	定期集会・地域別特別集会等……………14
内村鑑三研究セミナー……………5	事務局便り……………17
鈴木九十九さんを偲ぶ……………6	維持会員募集のお知らせ・編集後記……………18

内村鑑三の言葉

今井樟太郎君追悼演説

今より九年前余の生涯のうちに終生忘るべからざる一大打撃は来れり、(中略) 失望の淵に沈みつゝありし時に一日名も知らぬ一人の大阪人より一封の手紙を受取れり、(中略) 先生よ假令世は悉く先生を棄つるとも決して失望し給ふ勿れ、神は先生の心を知り給へば必ずや世の誤解を解き給はん、願くは正義の為め道の為め患難のうちに一層の勇気を以て奮闘し給はんことを云々とありて、心より余の境遇に同情を表して神によりて余を慰めんとしたるなりき、嗚呼余が此手紙を読みし時の感は如何なりしか、(中略) 此時余は暗夜の中に只一つの星を認めしなりき、(中略) 而して此未知の友は即ち故今井君にてありしなり

(漢字のルビ・傍点は省いた。「キリスト教世界」1907年6月、「内村鑑三全集」15巻、岩波書店、1981年)
(選：NPO法人今井館教友会相談役 大山綱夫)

○表紙について

今号の巻頭言は、27年間続いた「今井館ウィークデイの集い」について鷺見八重子さんがお書き下さった。ともすれば男性優位と囁かれる無教会の中にも「ウィークデイの集い」のような一つの女性運動があったことは、無教会のSDGsを考えるときの指標となろう。写真は2018年3月の最後の会の後に記念撮影に収まる企画委員たち、(右から) 鷺見八重子、蜷川文子、高橋トミ子、旦節子、武藤富子、湯沢久子 (敬称略)。(C.Y.)

『今井館ニュース』発行趣旨

NPO 法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三(無教会の提唱者)及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする(定款第3条)。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする(定款第5条3項)。